

平成30年度第1回選定委員会（小学校） 議事概要

平成30年6月

1 開会挨拶

倉敷市教育委員会指導課長

2 委員紹介

名簿順に紹介

3 選定委員委嘱

代表者に協議会会長代理の倉敷市教育委員会指導課長から委嘱状を渡す。

4 協議会規約，選定委員会細則について

事務局が規約と細則について説明。

5 選定委員長，副委員長選出について

委員長1名，副委員長2名を選出。

6 協議会会長諮問

協議会会長代理の倉敷市教育委員会指導課長が選定委員長に諮問文を読み上げ，諮問文を渡す。

7 協議（委員長が進行）

（1）採択手続きについて

① 平成31年度使用小学校教科用図書の採択について

事務局が平成20年度以降の教科書検定・採択等のスケジュール及び平成31年度使用小学校教科用図書の採択について文部科学省通知に従い説明。

② 採択事務組織について

事務局が教科用図書採択関係組織について説明。

③ 採択事務日程について

事務局が平成31年度使用「小学校教科用図書」採択事務日程を説明。

(2) 第2回選定委員会の進め方について

事務局

平成31年度の一年間の使用であること，平成29年度検定において新たな図書の申請がなかったため会社等の変更がないことの2点により，平成31年度使用小学校教科用図書採択においては，平成26年度採択における調査研究の内容を活用し，各選定委員からの意見や指摘を受け，選定委員会としての答申を作成する。

委員

意見や指摘は文章で準備するのか，まとめた意見を口頭で発言すれば良いのか。

事務局

文章で準備しても，口頭での発言でもどちらでもよい。ただし全ての教科について，研究資料や選定資料を熟読して来ていただきたい。

委員

全ての教科について研究資料と選定資料を読み直し，継続使用に適しているかどうかについて再考してくるということによいか。

事務局

(よい) 第2回の選定委員会では，全ての教科書について，全委員の意見をもとに継続使用するかどうかについて協議したいと考えている。

(3) 留意事項について

事務局が選定委員に対して留意事項を詳細に説明。

8 その他

誓約書の提出について事務局から説明。

9 閉会

委員長 挨拶

平成30年度第2回選定委員会（小学校） 議事概要

平成30年7月

1 開会挨拶

選定委員長

2 説明

事務局から日程について

①研究資料や選定資料をもとに意見交換。

②意見をもとに、平成26年度作成の選定意見書を確認し、現在使用している教科書の継続使用か、採択替えかの審議を行う。

③継続使用の場合、平成26年度作成の選定意見書を答申とする。採択替えの場合、新しい選定意見書を作成。

3 協議

（1）審議手順、評価方法について

はじめに、全教科全種目、全教科書発行者の特徴を研究資料や選定資料の観点に沿って意見を出し合う。その後、選定委員会意見一覧を発行者ごとに確認し、継続使用か採択替えかを審議する。評価については、採択地区内全体使用に極めて適している、たいへん適している、適しているという表現で優劣を表す。

（2）答申方法について

選定委員会からの答申文をもって、地区協議会に答申を行う。

（3）審議

委員長

「国語」についての意見や指摘はないか。

委員

教材の構成では、「単元・小単元・コラム」を設ける等、様々な工夫を各社が行っている。その中で光村図書出版は、知識技能の習得を活用探求に結びつけることができるような構成になっている。この点が求められている力の育成に効果的と考える。さらに、この構成が繰り返されているため、活用力の定着にも効果的と考えられる。

委員

音読や暗唱を通して日本語の美しさが感じられる教材を設けている発行社が

複数ある。各社それぞれ、日本語の美しい響きを感じ取れるような内容を入れ込んでいる。その中で、光村図書出版は、発達段階に応じて日本文化の作品世界を豊かに育むことができたり、教師が伝統文化に親しむことが出来やすかったりする工夫がされているため、伝統文化に触れやすいと考える。

委員長

「書写」についての意見や指摘はないか。

委員

各発行者を比較すると、基礎基本の定着を図るための工夫が様々されている。

委員

東京書籍は字形、配列、点画を繰り返し練習できるように示したり、低学年ではイラスト、写真を効果的に利用したりしている。また、生活に広げようのページが設定されており、学習内容を実際の生活で活用できる態度の育成に配慮がされている。巻末には一年間行事に併せて指導内容を示している。そのため、他教科との関連を考えて使用することができる。

委員長

「社会」についての意見や指摘はないか。

委員

5年生の学習では、震災・防災を学習することになっている。全ての発行者が東日本大震災を取り入れているので条件を満たしている。その中、日本文教出版は公害をとりあげ歴史との関係、産業・環境教育の問題へ目を向け広く学習ができるように内容を取り扱っている。また、岡山県内の事例が豊富に取り上げられている。東京書籍は約20頁、その他の発行者は渋染一揆を取り上げる程度。日本文教出版は約40頁取り入れている。その点が3・4年生の学習とのつながりが良いと考える。

委員

構成では、発展的な学習があるかどうかの観点から考えると東京書籍、教育出版、日本文教出版においての工夫が甲乙付けがたい。このことについて十分な感じを受けない光村図書はやや劣る印象がある。

委員長

「地図」についての意見や指摘はないか。

委員

帝国書院は、鳥瞰図を利用し地形を立体的に想起させながら三次元でとらえることができる工夫が優れている。また、構成配列では、日本全体をとらえてから地方別をとらえることができる。全体をとらえてから地域の特徴をとらえ比較す

るという地図配列の工夫がある。

委員

帝国書院は AB 版。東京書籍は A4 版。発達段階を考えて AB 版が良いと考える。

委員長

「算数」についての意見や指摘はないか。

委員

啓林館は、教科書の内容記述の順番（①単元前の準備のページ②導入前の既習事項の振り返り③導入時の全体を通して課題設定④既習事項を基に新しい学習を行う）が良いため課題解決し易い。また、スパイラルに学習が組まれているため学習の理解が深められる。

委員

基礎的な学習にだけでなく、ねらいに応じたタイトルの色調で興味を引きやすいページが作られている等、活用を意図したページに工夫がある。

委員長

「理科」についての意見や指摘はないか。

委員

東京書籍は既習内容を他教科の内容や身近な生活事象と関連付けて学習できるように工夫している。そのため、基礎基本の定着に加え、興味・関心や科学的に考える力の育成ができるように配慮をしている。

委員

東京書籍は問題解決のための課程を緑色のラインで示している。これにより、児童は本時の学習の流れが分かりやすくなると考える。その他、効果的に写真を使用する等、紙面のレイアウトが見やすい。

委員長

「生活」についての意見や指摘はないか。

委員

日本文教出版は多様なカードがあり、とても勉強しやすい。特に、なりきりカードは学習をまとめたり、気づきを発表したりすることに効果的で、自分の生活や成長を振り返る活動が充実すると考える。その上、表現力を育む言語活動が充実できると考える。

委員

日本文教社は「なんでも図鑑」がついている。これについては地域の理解を深めることができると考える。倉敷市の地域の行事、町探検では公民館を取り上げる等、地域を子どもが身近に感じられる工夫がある。

委員長

「音楽」についての意見や指摘はないか。

委員

児童の自発的な言語活動が促進されるように、吹き出しによる問いかけをしたり、発言を例示したりするなど言語活動のポイントを明確に示し、思いを伝え合うことができるようにしている教育芸術社の工夫が良い。

委員

教育芸術社は音楽作りの学習が無理なく効果的に配置されている。そのため、出来る喜びが味わえ、学習意欲を高める効果がある。

委員長

「図画工作」についての意見や指摘はないか。

委員

開隆堂出版は、教材名や活動内容を示す文章が児童の立場から書いてある等、表現の工夫が良い。また、児童から発想構想を引き出すヒントが写真や吹き出しをたくさん利用して書いてある点が良い。

委員

開隆堂出版は、社会や生活につながっていくことを示すコーナーや暮らしの中の伝統文化等地域に目を向けることができるコーナーが設けられている点も優れている。

委員長

「家庭」についての意見や指摘はないか。

委員

開隆堂出版は、必要な基礎基本・基本的な知識・技能の習得のために、題材を細かく構成・配列してスモールステップで学習を積み上げることが出来るように配慮している。

委員

開隆堂出版は、課題意識をもって解決出来るよう、説明したり、表現したり、話し合ったりする実践的・体験的な言語活動が出来るように配慮されている。分かり易いので予習の時に効果的である。

委員長

「保健」についての意見や指摘はないか。

委員

東京書籍は教科書の様々な場所に活用して深めようという掲載があり、考えを表す活動に結びつけることができる。そして、自分の生活と結びつけて課題を

考えることができる工夫もある。

委 員

東京書籍は、実物大の写真や児童の興味関心が湧くような写真が掲載されており、今の自分と比べながら考えることができる。教科書の色・書体が様々な立場の人が見ても分かり易いように配慮されている。

委員長

以上のことを総合的に判断すると、現在採択されている教科書について継続使用が適切と考えるがよろしいか。

(意見一致)

4 閉会

委員長 挨拶

平成30年度第1回選定委員会（中学校） 議事概要

平成30年5月

1 協議会会長挨拶

2 委員紹介

名簿順に紹介。

3 選定委員委嘱

代表者に協議会会長から委嘱状を渡す。

4 協議会規約、選定委員会細則について

事務局が規約と細則について説明。

5 選定委員長、副委員長選出について

委員長1名、副委員長2名を選出。

6 協議会会長諮問

協議会会長が選定委員長に諮問文を読み上げ、諮問文を渡す。

7 協議（委員長が進行）

（1）採択手続きについて

①平成31年度の採択について

事務局が教科書検定・採択等のスケジュールについて説明。

②採択事務組織について

事務局が教科用図書採択関係組織を説明。

③採択事務日程について

事務局が平成31年度使用中学校「特別の教科 道徳」教科用図書採択事務日程を説明。

④教科書研究について

事務局が、地区協議会で承認された採択方針や採択の観点に基づいて調査研究を行っていくことを説明。

（2）研究委員の研究事項報告について

調査研究結果は研究報告書に観点別に特徴をまとめていき、報告することを説明。

（3）第2回選定委員会の進め方について

選定委員会の進め方について説明。

委員

「絞り込みを行わない」とは具体的にどういうことか。

事務局

全ての出版社を研究協議して選定していくということ。

委 員

研究委員が報告書をまとめる際に、文章表現をするということを意識してまとめていけばよいということか。

事務局

文章表現を明確にすることで、他の委員にも伝わりやすいものになると考えている。

委 員

第2回選定委員会で研究員の報告を受け、短時間で選定しなければならない。事前に報告書を確認できれば充実した協議ができるのではないか。

事務局

今回の選定委員会で十分に審議ができる時間を取れるように配慮したい。

(4) 留意事項について

事務局が選定委員に対して留意事項を詳細に説明。

8 その他

誓約書の提出と見本本の貸し出しについて事務局から説明。

9 閉会

委員長 挨拶。

平成30年度第2回選定委員会（中学校） 議事概要

平成30年7月

1 開会

選定委員長挨拶。

2 説明

研究報告書は、研究委員が全ての教科書について、専門的事項に基づきながら調査研究を行った。「内容の特徴・表現」「教科書の構成・配列及び分量、使用上の便宜等」の2項目の下に、道德の特性等を考慮に入れた調査研究の観点を設定し、まとめられている。代表研究委員からの報告と合わせて、選定の際の資料としていただきたい。

3 協議

（1）日程、審議手順及び評価方法について

事務局が日程を説明。代表研究委員が全ての教科書について報告を行う。その後、質問をする。報告者が退席後、審議し、意見書を作成。

（2）答申方法について

選定委員会からの答申文をもって、地区協議会に答申を行う。

（3）選定委員会意見作成について

事務局から、「生徒の学習」という視点に立ち、総合的に評価した意見を簡潔にまとめるように指示。

4 報告・審議

研究委員代表者が研究報告書を基に、全ての教科書について報告。

委員

版の大きさ、文字の大きさ、色、紙質等何か意見があったか。また、生徒が扱いやすいかどうかで、何か意見はあったか

報告者

版の大きさの特徴については、話題にも上がったが、版の大きさよりも内容に重点がおかれた話となった。活字が大きく視覚的資料の多いものは分かりやすいという意見が出た。

〈報告者退出〉

委員

あかつきと日文には別冊の道德ノートがついている。中学生にとってノートがついている方が学習を進めやすいのか。無くてもいいのか。

委員

光村は、教科書の中に振り返るノートの代わりにあるものがある。

委員

別冊のノートがあるのには賛成。ワークシートを使うのでノートがワークシート代わりに使える。全部使わなくてもピックアップして使うことができる。ノートを新しく買わなくてもす

む。光村の教科書にも記入欄があるが、生徒が教科書に書いて教師がコメントしようと思えば教科書を集めないといけない。

委員

学習の振り返りは残していないといけないと思う。そういう意味ではノートは記録として残る。ノートの心配点として、全然埋まっていない状態で後から振り返りができるのか。若い教員が増える中で発問の具体的なものが書いてある方が授業をやりやすいと考える。

自分で作っていくよりも順番にやっていけばよいという方が、授業者によって大きな差が生じにくくなるのも事実である。ノートがある方が授業を進めやすい。東書以外にもノートはあるが、東書の中には保護者欄があるのもおもしろい。

委員

あかつきの道徳ノートを見ると、自分の思いを書く欄があるのは良いと思うが、一つの題材において、内容項目が一つに絞られない場合もあって、生徒がどの題材で考えたことなのかを振り返りがしにくい。

委員

ノートがある・ないを抜きにして、書く活動や話し合いの活動がすごく取り入れられていると感じた。ただ、話し合いをすとなった時に、書くことが多すぎると書くことに集中してしまい、意見交換や自分の振り返りができにくくなる。東書は、いろんな生徒がいるので自分のことを考えて振り返りのできる構成になっている。まず簡単なつぶやきから始まって、そのワークシートでつながり、一学期の振り返りにつながっていくと生徒にとってもスムーズな感じがしてよい。

委員

日文のノートに「考えてみよう」が載っている。若い教員にとってみたらこのとおりやれば授業が進むので便利なこともある。ベテランの教員にしてみれば多方面から考えさせたいという時に、ノートがあると困るなという両面がある。

委員

学研のサイズは大きい、絵は大きいけど文字が小さく余白が大きい。

委員

日本教科書は、シンプルすぎて力量のある教員が使うにはいろいろな使い方ができるが、経験のない教員では使いにくいように思う。

委員長

これまでの審議をまとめると、東京書籍がよいという意見にまとまりそうだが、選定委員会の意見として東京書籍ということよろしいか。

(意見一致)